



令和4年度

1月の園だより



みみょう保育園

子どもの感性を育む、豊かなあそび

子どもたちは身近にあるものに興味・関心を寄せていろいろなことを試しながら、豊かなあそびを通して感性を育てています。そして、側にいる大人が、子どもの思いやつがやきを受けとめることで、「やってみたい!」がどんどん膨らんでいきます。じっくり遊び込んだり、見立てたり…子どもの世界を楽しんでみませんか?

乾いたどんぐりの中から“カラカラ”音が! 割ってみると、中から不思議な実が出てきたよ!

指で線あそび! 模様についておもしろいね。

驚き! なんだ、これは?

保護者の方から頂いた、廃材にじろじろお絵かき! あら、ここに笑顔が素敵だね。

OHPやライティングテーブルなど、少し暗いお部屋で色を重ねてみたり、廃材を並べてみたり…

不思議がいっぱい! 楽しいね。

毎日、子どもたちの“やってみたい”がいっぱいです。

消さないであなたの心の注意の火

広島市南消防署
警防課 救助係



「子どもの人権と主体的保育」

新年あけましておめでとうございます。

この1年が子どもたちにとって、保護者の皆様方にとってよい1年になりますこと、そして何より新型コロナウイルス感染症が早く収束することを心より念じております。

さて、昨年末、静岡県の認可保育園に勤めていた保育士3人が1歳児の足をつかんで宙づりにしたり、寝ている子どもに対しご臨終と言ったり、倉庫などに閉じ込めるなど、不適切な保育が発覚し、保育士が暴行容疑で逮捕されました。他の自治体においても同様の事案が発覚し、保護者の皆様にご心配をおかけしておりますこと、保育関係者としてとても残念に思っています。

事態を重く見た政府は、保育所等における不適切な保育の実態調査に乗り出すとともに、「業務が増加し、ストレスが溜まる状況であった」という加害保育士たちの言い分があったことから、保育士配置基準(例えば、4・5歳児クラスでは保育士1名に対し園児30名という遵守すべき基準)を段階的に緩和する方向で検討するなど、不適切な保育の対応に乗り出しました。

これまでも、こうした事案が発覚すると、国は、物理的なモノや保育者の管理強化で対応しようと考えてきましたが、それでは根本的な解決にはならないと思います。

なぜならば、例えば、まだ園庭で遊びたいという子に対し、「早く早く」と子どもの気持ちを聞こうともせず急がせる保育が当たり前の園では、いくら保育者数を改善しても無理やりさせてしまう保育は一緒であり、そういう保育を行う園の保育者は、言うことを聞かない子がいるとついイラっとしてしまうからです。

子どもの成長発達を学び、子どもの人権について深く理解している保育者であれば、そのような状況においては、子どものまだ遊びたいという気持ちを理解し、「これから給食の時間だよ。今日の給食は〇〇なんだって。楽しみだね」など、給食の時間だという先の見通しを示すなどして、気持ちの切り替えを手助けします。

今回の不適切な保育の事案を受けて、みみょうでは、近日、研修を実施し、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を用いて、子ども一人ひとりの人格を尊重しないかわり・物事を強要するなかかわり・脅迫的な言葉がけ・罰を与える、あるいは乱暴的なかわり・差別的なかわりがないかどうかを確認するとともに、子どもの人権についてあらためて学び直しをし、子どもの気持ちを尊重する保育はどうあるべきかについて話し合いをすることにしています。

年始早々、不快な内容の園だよりとなってしましましたが、石川県認定こども園協会の木村昭仁副会長は、「子どもの権利に基づく保育とは、子どもの声に耳を傾ける保育であり、それが子どもの主体性を育み、アクティブラーニングになり、次代を生きる子どもを育てることになる」とおっしゃってられます。まさに、みみょうが実践している「子ども主体の保育」であり、さらに言うところ3歳までの「丁寧で応答的な保育」に辿り着くと考えます。

みみょうの保育が、今よりもさらによくなるよう、職員一同、気持ちを新たに「子ども主体の保育」に専念してまいりたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い致します。

みみょう保育園 園長

十二支の由来 (令和5年は兔年)

ある時、神様が動物たちを集めて「お正月の朝早く来たものから12番目の者をその年の干支にする」と言いました。猫はうっかりしていたのでネズミに尋ねました。ネズミはわざと約束の次の日を教えました。ネズミが牛のところに行くとな牛は、「歩くのがゆっくりだから、早く出かけるよ」と言うのでネズミはすかさず牛の背中に乗りました。朝になり、神様の門の前まで来るとネズミは牛の背中から飛び降りて、「私が一番!」と名乗りました。そして、牛が2番です。次々にトラ、ウサギ、タツ、ヘビ、ウマ、ヒツジ、サル、トリ、イヌ、イノシシと干支をつけてもらいました。次の日に行った猫は、誰もいないのであわてて門番に尋ねると「顔を洗って出直して来い」といわれました。猫が良く顔を洗うしぐさをするようになり、ネズミを追いかけるのはこのときからだそうです。



成人の日 1月9日

大人になったことを自覚し、自ら生きぬこうとする青年を祝い、励ます日で、昭和23年に制定され、平成12年(2000年)から1月の第二月曜日に定められました。民法では、“満二十歳ヲ以ッテ成人トス”とあり、法律上独立の社会人としての地位を与えられます。

わが国では古くから成人を祝うしきたりがあり、男性は元服、女性は裳着といいました。

まだまだ成人には年月がかかる子どもたちですが、夢と希望を持って成人できるよう、私たち大人が毎日明るく、前向きな姿を見せていきたいものです。